

平成27年 7月

各位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成27年7月号」をお送りいたしましたので、ご覧くださいますようお願いいたします。

さて、八戸ではいよいよ夏を彩る山車祭り、八戸三社大祭が開催されます。現在、この八戸三社大祭の山車行事など33件で構成する「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産登録に提案されています。2016年11月に審査予定ですが、国際的な評価を得て、さらに華やかになって欲しいですね！

都心では暑い日が続いておりますが、夏休みなどを利用して、爽やかで心地よい風が吹く八戸に遊びにいらしてください。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸レポート

7月号

平成27年6月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸市 中核市移行計画案公表
2	是川縄文館 バス往復乗車券との割引パック商品販売

## 【産業】

No.	項目
3	八戸港 生スルメイカ今季初販売 ～生イカのシーズン到来！～
4	東北電力八戸火力発電所 7月1日から営業運転開始
5	八戸サバ加工品の経済効果 漁獲高の3.6倍に相当

## 【地域】

No.	項目
6	南郷島守で「すまもり村田植えまつり」～先人に思いほせ 田植え～
7	「はっち」 開館から4年4カ月で来館者400万人突破！
8	八工大 「八戸液化化リスクマツ」をネット上で公開
9	南郷「山の楽校」 開校10周年を機に新たに「あしたの楽校」創設
10	種差海岸 天然芝生地で乗馬体験開催
11	大島衆議院議長就任 八戸で祝賀会開催
12	是川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」が烏帽子に
13	ヴァンラーレ八戸×吉田屋 コラボ弁当販売へ
14	八戸舞台のドラマ「制服捜査2」 蕪鳴神社などでロケ
15	伝説の騎手 前田長吉（八戸出身）の生涯が漫画に

## 【文化・スポーツ】

No.	項目
16	「新むつ旅館」 保存・伝承におけ協議会設立
17	東北最大級のボルダリングジム 八戸市内に初開店
18	ヴァンラーレ八戸 J3参入に向け八戸市へ支援要望
19	八幡遺跡で平安時代の竪穴住居跡発見
20	サハラ砂漠250キロ走破「サハラマソン」 八戸市出身の竹内靖治さん出場
21	全日本国際酒類振興会コンクール 日本酒「如空 金撰」が最高賞
22	FCバルセロナ所属のアルバが指導するサッカー教室 開催

## 【県内】

No.	項目
23	糖尿病死亡率 青森県が全国ワースト
24	青森県内交通事故多発交差点 八戸市が20カ所で最多

【行政】

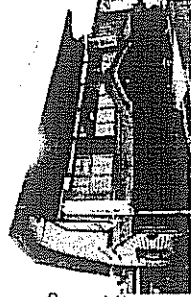
No.		レポート
<p><b>八戸市 中核市移行計画公表</b></p> <p>八戸市が、2017年1月1日の移行を指している中核市について、移譲される事務や財政見通しなどをまとめた移行計画案を公表した。県から移譲される事務は2千件で、うち約半数を保健所などの保健衛生業務が占める。計画案では、移行の狙いを「都市の自主性・自立性を高め、市民福祉の最大化を図る」とし、◇きめ細かな市民サービス提供◇自立的◇自立的で特色あるまちづくりの推進◇都市のイメージアップと八戸広域圏の活性化、の効果を挙げた。</p>		
1		
<p><b>是川縄文館 バス往復乗車券との割引パック商品販売</b></p> <p>八戸市は7月1日から、是川縄文館の観覧料割引券と、中心街などからの南部バスの往復乗車券をセットにしたパック商品を販売している。中心街またはJR八戸駅一同館間の往復乗車券は400円で通常より最大200円安くなる。同館でバックチケットを提示すると観覧料が半額になる。国宝の合掌土偶があり、八戸市が舞台の映画「ライアの祈り」の撮影場所にもなった同館を楽しんでもらうとともに、バスの利用者増加を図る企画。</p>		
2		

【産業】

No.		レポート
<p><b>八戸港 生スルメイカ今季初販売 ～生イカのシーズン到来！～</b></p> <p>6月16日、小型イカ釣り船が三沢沖などで漁獲した生スルメイカが、八戸港で今季初販売された。八戸市第2魚市場では、八戸みなと漁協所属の第18長久丸(9.7トン)1隻が1ケース5キロ入り77ケース(約385キロ)を水揚げ。ハマを活気づける釣り物の生イカが少量ながらも目見えし、待望のシーズン到来を感じさせた。小型イカ釣り船の水揚げは、例年7月ごろに本格化する。</p>		
3		
<p><b>東北電力八戸火力発電所 7月1日から営業運転開始</b></p> <p>東北電力は、液化天然ガスへの燃料転換に伴い、試運転中だった八戸火力発電所5号機について、7月1日から営業運転を開始した。LNG導入により発電効率が向上し、最大出力は約5.6%増の41.6キロワット。発電コストや環境負荷の低減が見込まれる。電力の安定供給のため東日本大震災後に進めてきた設備投資は、これで一区切りを迎える。</p>		
4		
<p><b>八戸サバ加工品の経済効果 漁獲高の3.6倍に相当</b></p> <p>2014年に水揚げされたサバの流通、加工に伴う八戸市周辺での経済効果が、漁獲高の3.6倍に相当する約191億円と見込まれるとの試算を、弘前大食料科学研究所がまとめた。2014年のサバの水揚げ高は52億6千万円。これに対して、鮮魚や加工品としての総販売額は約244億円となった。八戸港でのサバ水揚げ高は魚種全体の2割強にすぎないものの、加工品の出荷額が水産加工品全体の半分近くを占める、として、八戸の水産加工業界はサバへの依存度が高いと結論付けている。</p>		
5		

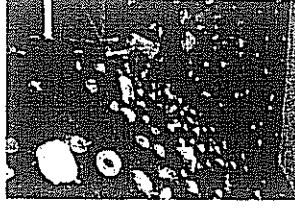
No.	レポート
6	<p><b>南郷島守で「すまもり村田植えまつり」 ～先人に思いほせ 田植え～</b></p> <p>八戸市南郷島守にある中世から続く田んぼで、5月31日に「第2回すまもり村田植えまつり」が開かれた。約700年前の鎌倉時代後期から続く水田を地域活性化につなげようと、地元住民らでつくる「すまもり中世の田んぼクラブ」が昨年にかけて企画開催した。参加した約80人が、土地を守り継いできた先人に思いをはせながら、古式定規を使う昔ながらの方法などで、古代米やもち米、あきたこまち、まっしぐらの田植えを楽しんだ。</p>
7	<p><b>「ほっち」 開館から4年4カ月で来館者400万人突破！</b></p> <p>2011年2月に開館した「ほっち」の来館者が、6月2日に400万人を突破した。「ほっち」は、市が当初予想した年間65万人を上回るペースで来館者数が推移。昨年5月30日に300万人をマーク。開館から4年4カ月余りで400万人に到達した。佐々木結子館長は「八戸市と近隣、全国からも多くの人が訪れ、中心街を動かす大きな力になっている。これからも新しい魅力を発信していく場にしていきたい」とあいさつした。</p>
8	<p><b>八工大 「八戸液化化リスクマップ」をネット上で公開</b></p> <p>八戸工業大学が、大地震時に市内で液化化する危険性のある地点をまとめた「八戸液化化リスクマップ」を作成し、インターネット上での公開を始めた。マップは液化化の危険度を簡易的に示す液化化指数(PL値)を算出し、危険度を色分けして表示している。現在、市内約2500地点以上を登録しており、河川沿いや沿岸部などに液化化の危険性が高い地点が多いことが分かった。作成した同大の金子教授は「市民にも見てもらい、防災の意識を高めてほしい」と話している。</p>
9	<p><b>南郷「山の楽校」 開校10周年を機に新たに「あしたの楽校」創設</b></p> <p>八戸市南郷の青葉湖展望交流施設「山の楽校」が6月19日に開校10周年を迎えた。これを機に、新たに「あしたの楽校」を始める。活動に賛同するサポーターを募り、焼き畑で収穫した大豆のみそや豆腐、手工芸品、レシピアなどの“地域の文化”をまるごと届ける。実際に足を運ばない遠方のファンにも「心のふるさと」として活動を支えてもらい、収入の安定を図ることで、雇用創出や担い手育成につなげたいとしている。</p>
10	<p><b>種差海岸 天然芝生地で乗馬体験開催</b></p> <p>種差海岸天然芝生地で乗馬を体験できるイベントが、種差観光協会主催で今年も始まった。このイベントは今年で3回目。八戸市の「POLOライディングクラブ」が協力し、毎年2頭の引き馬とスタップで行っている。初日の6月13日は、観光客や市民らが早速乗馬体験し、馬上からの爽やかな景色を堪能した。開催日は6～9月の第2、第4土曜日、午後0時半～同3時。料金は1回500円。</p>
11	<p><b>大島衆議院議長就任 八戸で祝賀会開催</b></p> <p>青森県選出の国会議員として、初の衆議院議長に就任した大島理森氏の就任祝賀会が6月21日、八戸プラザアバンホールで開催された。祝賀会には八戸市、八戸商工会議所、三戸郡町村会が主催した。約1300人が出席し、小林眞八戸市長、三村申吾知事、滝沢求参議院議員らが祝辞を述べた。大島氏は「郷土と日本の発展のために、皆さんの期待に背かぬよう身を律して全力を尽くす」と決意を語った。</p>

12	<p><b>是川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」が烏帽子に</b></p> <p>八戸市は川縄文館のマスコットキャラクター「いのるん」をあしらった小さな机(えんぶり)の烏帽子が、6月中旬から同館で販売されており、来館者の注目を集めている。制作したのは、同市で贈答品や記念品販売などを手掛ける寿屋の監査役で、同館でボランティアガイドを務める大川修一郎さん。もともと、厚紙やリボンなどで烏帽子を独自に作っていた大川さんは「いのるん」を知ってほしいとの思いから制作した。</p>
13	<p><b>ヴァンラーレ八戸×吉田屋 コラボ弁当販売へ</b></p> <p>日本フットボールリーグのヴァンラーレ八戸と、八戸市の駅弁販売「吉田屋」がコラボレーションした弁当「ヴァンラーレ八戸応援弁当」が完成し、八戸市庁記者クラブでお披露目された。公募で決定した弁当の中身は、フィードをイメージしたのりの下にケチャップライスとおかかご飯がたっぷり300グラム。おかずは「スタミナ源たれ」で一日漬けた鶏の空揚げ、トンカツ、イカの姿煮などボリューム満点。今季のホーム戦で、毎試合300個を取り扱う。税込み1200円。売り上げの一部はチームの強化費に充てられる。</p>
14	<p><b>八戸舞台のドラマ「制服捜査2」 蕪嶋神社などでロケ</b></p> <p>2013年にTBS系列で放映した「制服捜査」の第2弾で、八戸市を舞台にしたサスペンスドラマの続編「制服捜査2」の現地ロケが本格化している。続編の舞台は蕪嶋まつり。6月20日から始まった撮影は市の全面協力の下、蕪嶋神社に屋台やステージなどを實際ながら再現。市民もエキストラとして参加、ドラマを盛り上げている。主演を務める内藤剛志さんは「八戸の魅力が詰まったサスペンスになっている。楽しみにしてほしい」と意気込んでいる。放送日時は未定。</p>
15	<p><b>伝説の騎手 前田長吉（八戸出身）の生涯が漫画に</b></p> <p>八戸市出身で、日本ダービー制覇の最年少記録を持つ騎手ながら、戦後のシベリア抑留で死亡した前田長吉(1923～46)の生涯が、読みきり漫画となる。競馬漫画『優駿の門』などで知られる漫画家やまさき祐味(ひろみ)さんが執筆。8月10日刊行予定のヤングアニマル特別編集戦後70周年記念増刊『漫画で読む、「戦争」という時代』(仮題、白泉社)に掲載される。やまさきさんは八戸市を訪れ、長吉の兄の孫で、遺品を管理する前田貞直さんを訪ね長吉生前の写真や手紙を取材、また旧生家などをカメラに収めた。</p>
【文化・スポーツ】	
No.	レポート
16	<p><b>「新むつ旅館」 保存・伝承にむけ協議会設立</b></p> <p>明治期の遊郭のたたずまいをとどめ、国登録有形文化財になっている小中野の「新むつ旅館」を後世に残そうと、市民有志が、「県南地域の文化遺産等保存伝承協議会」を設立した。2011年の東日本大震災で被害を受けた屋根や外壁などの修復を終え、今年5月に営業を再開したばかりだが、今後も営業を続けるには玄関を含めた正面部の修復が必要となるなど課題が多い。老朽化が進む建物の修復に向けて資金集めや周知などに取り組むほか、青森県南地方にある文化遺産についても保存・伝承活動の範囲を広げていく考えである。</p>



**東北最大級のボルダリングジム 八戸市内に初開店**

フリークライミングの一種で、道具を使わず腕と脚の力で岩などを登るスポーツ「ボルダリング」の専門ジムが、八戸市内で初めて石堂2丁目にオープンした。倉庫を利用した室内には、不規則な突起がついた高さ4メートルの壁が9面あり、東北最大級の規模。初心者から上級者まで楽しめる。5月に開店してから約1カ月間で登録会員は既に200人に達しているという。



17

**ヴァンラーレ八戸 J3参入に向け八戸市へ支援要望**

2015年度の日本フットボールリーグ第1ステージを制したヴァンラーレ八戸の細越健太郎代表が、6月17日、八戸市庁に小林眞市長を訪ね、プロサッカーリーグJ3への参入に向けた支援を求めた。第1ステージを制したヴァンラーレは年間2位以内が確定しており、成績面の昇格条件は満たしている。一方、2016年秋に供用を開始する(仮称)多賀地区多目的運動場を将来のホームグラウンドと見込んでいるが、現時点でスタジアムなどの要件はクリアできていない。要望したのは◇市の出資◇八戸東運動公園陸上競技場でJ3の公式戦を開催できるような環境整備◇ふるさと納税による「ヴァンラーレ基金」の設立、の3点。

18

**八幡遺跡で平安時代の竪穴住居跡発見**

八戸市八幡にある八幡遺跡の発掘調査で、平安時代の竪穴住居跡12棟や、集落を区切る境界とみられる中世の溝などが見つかった。竪穴住居跡には、かまど跡や炊事の煙を逃がす穴があり、ほかに食べ物の冷蔵場所と推測される深い穴も見つかった。狭い範囲の中で繰り返し住居が建て替えられており、いくつもの時代にまたがって人々の生活が営まれていた様子が浮かび上がった。

19

**サハラ砂漠250キロ走破「サハラマラソン」 八戸市出身の竹内靖治さん出場**

八戸市出身の団体職員・竹内靖治さん(35)=東京都在住=が、7日間かけてアフリカのサハラ砂漠約250キロを走破する「サハラマラソン」に出場し、完走を果たした。食料など12キロの荷物を背負い、6泊7日で気温50度のサハラ砂漠を走るレース。49カ国から約1400人が参加し、竹内さんは友人と3人で挑んだ。「1年前までは10キロも走れなかったのに、250キロを走り切れた。やると決めれば何とかなるんだという自信になった」と竹内さんは日焼けが残る顔をほころばせた。

20

**全日本国際酒類振興会コンクール 日本酒「如空 金撰」が最高賞**

「全日本国際酒類振興会」主催のレギュラー酒コンクールが東京都内で開かれ、八戸酒類五戸工場(五戸町)の「如空 金撰」が最高賞の特別推奨第1位に選ばれた。「如空 金撰」は、しっかりと米の味の味の中に、ほのかな甘さがあるソフトな酒。冷や、常温、熱かんのいずれにも合うとされ、鍋料理などの食中酒などにピッタリだという。また、八戸酒類八鶴工場(八戸市)の「八鶴 金撰」も入賞した。

21

**FCバルセロナ所属のアルバが指導するサッカー教室 開催**

スペインのプロサッカーチームFCバルセロナの現役選手ジョルディ・アルバを招いたサッカー教室が、6月26日～28日に、市南郷陸上競技場で開催された。初日は高校生以上の男女102人が参加、27日、28日は小学生を対象に行われた。憧れのスター選手とボールを蹴り合い、和やかな雰囲気の中で充実した一日を過ごした。

22

## 糖尿病死亡率 青森県が全国ワースト

2014年の青森県の糖尿病死亡率が、前年の全国ワースト4位からワーストに悪化したことが、厚生労働省が公表した人口動態統計で分かった。腎不全の死亡率も前年に引き続き全国最悪で、医療関係者は、糖尿病の合併症である糖尿病性腎症が悪化し、死亡するケースが多いのではないかと分析する。県は本年度、健診段階で糖尿病が疑われると判断された人に対して専門の医療機関を知らせる「ファーストコングラツト推進事業」を実施。限られた医療資源を有効に活用し、糖尿病の重症化予防に努める。

## 青森県内交通事故多発交差点 八戸市が20カ所で最多

八戸市内で昨年1年間に3件以上の交通事故が発生した交差点が20カ所あり、青森県内40市町村中、最も多かったことが、県警交通安全課のまとめで分かった。交差点別で見ると、発生件数がトップなのは新井田横町の県道「新井田交差点」の5件で、次いで湊高台1丁目の国道45号「四本松交差点」など3つの交差点が4件と続いた。新井田交差点は県全体でも、青森市安田の国道7号「環七細越交差点」の8件について、“ワースト2”の発生件数だった。

